2	法定	自主
	○	

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和7年6月30日

横須賀市長　　殿

提出者

住　所　　東京都渋谷区初台１－５３－６

氏　名　　旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部
建設部長　荒谷　篤

（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）

電話番号　　０３－５３０８－４００６

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第９項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部		自主管理事業登録番号 （　1933　）
事業場の所在地	東京都渋谷区初台１－５３－６初台光山ビル2階	TEL（連絡先）:　03-5308-4006	
計画期間	令和７年４月１日 ～ 令和８年３月31日（１年間）		

当該事業場に関する事項

① 事業の種類	Ｄ－建設業	（具体的には）　064 建築工事業(木造建築工事業を除く)	
② 事業の規模 ※ 前年度実績を記入、医療機関は前年度末時点の病床数を記入。	製造業	製造品出荷額	- 百万円
	建設業	エリア内元請完成工事高	147,400 百万円
	医療機関	病床数	- 床
	その他の業種	売上高	- 百万円
	（上記項目に該当しない場合にはこちらに記載をしてください。） -		
③ 従業員数	561		
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程 ※ 産業廃棄物の種類ごとに記入			

（第2面）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項		
	（管理体制図）	
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
	① 現状	【前年度（令和 6 年度）実績】 産業廃棄物の種類数 7 種類 ① 排出量 1,748.1 t ＊ 種類ごとの前年度排出量は、別紙のとおり。 （これまでに実施した取組）
	② 計画	【（令和 7 年度）目標】 産業廃棄物の種類数 7 種類 ① 排出量 1,919.6 t ＊ 種類ごとの本年度排出目標量は、別紙のとおり。 （今後実施する予定の取組）
産業廃棄物の分別に関する事項		
	① 現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）
	② 計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項				
①　現状	【前年度（令和 6 年度）実績】			
	②＋⑧　自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	3.3	t	＊ 種類ごとの前年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。
	（これまでに実施した取組）			
②　計画	【（令和 7 年度）目標】			
	②＋⑧　自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	3.6	t	＊ 種類ごとの本年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。
	（今後実施する予定の取組）			

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項				
①　現状	【前年度（令和 6 年度）実績】			
	⑤　自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0	t	＊ 種類ごとの前年度自ら熱回収を行った量は、別紙のとおり。
	⑦　自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0	t	＊ 種類ごとの前年度自ら中間処理により減量した量は、別紙のとおり。
	（これまでに実施した取組）			
②　計画	【（令和 7 年度）目標】			
	⑤　自ら熱回収を行う産業廃棄物の量		t	＊ 種類ごとの本年度自ら熱回収を行う量は、別紙のとおり。
	⑦　自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量		t	＊ 種類ごとの本年度自ら中間処理により減量する量は、別紙のとおり。
	（今後実施する予定の取組）			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項				
① 現状	【前年度（令和 6 年度）実績】			
	③＋⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0	t	＊ 種類ごとの前年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量は、別紙のとおり。
	（これまでに実施した取組）			
② 計画	【（令和 7 年度）目標】			
	③＋⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		t	＊ 種類ごとの本年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う量は、別紙のとおり。
	（今後実施する予定の取組）			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項				
① 現状	【前年度（令和 6 年度）実績】			
	⑩ 全処理委託量	1,744.8	t	＊ 種類ごとの前年度処理委託量は、別紙のとおり。
	⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	50.5	t	
	⑫ 再生利用業者への処理委託量	1,727.5	t	
	⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0	t	
	⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	6.1	t	
	（これまでに実施した取組）			

<table>
<tr><td rowspan="8"></td><td rowspan="8">② 計画</td><td colspan="3">【（令和 7 年度）目標】</td></tr>
<tr><td colspan="2">⑩ 全処理委託量</td><td>1,916.0 t</td><td rowspan="6">＊ 種類ごとの本年度処理委託量は、別紙のとおり。</td></tr>
<tr><td></td><td>⑪ 優良認定処理業者への処理委託量</td><td>55.5 t</td></tr>
<tr><td></td><td>⑫ 再生利用業者への処理委託量</td><td>1,897.0 t</td></tr>
<tr><td></td><td>⑬ 認定熱回収業者への処理委託量</td><td>t</td></tr>
<tr><td></td><td>⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量</td><td>6.7 t</td></tr>
<tr><td colspan="4">（今後実施する予定の取組）</td></tr>
<tr><td colspan="2">※ 事務処理欄</td><td colspan="4"></td></tr>
</table>

備考

1　この様式は、前年度（令和6年度）の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに１枚作成し、提出してください。

また、前年度（令和6年度）の産業廃棄物の発生量が1,000トン未満の事業場にあっては、神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市が推進する廃棄物自主管理事業へ参加するにあたり、事業場ごとに１枚作成し、提出してください。

2　当該年度（令和7年度）の6月30日までに提出してください。

3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入してください。

（1）　①欄には、日本標準産業分類（中分類）の区分を記入してください。

（2）　②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入してください。

（3）　④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入してください。

4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入してください。

5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第１項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入してください。

6　それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付してください。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入してください。

7　第５面の※欄には、何も記入しないでください。

産業廃棄物処理計画書

2－2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称 ： 旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ア．燃え殻

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

（単位：t/年）

有償物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量 0.0 t

※1 自社の他事業場からの搬入量 t

A 自己処理

② 自ら直接再生利用する量 t

③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量 t

④ 自ら中間処理する量 t

⑤ ④のうち熱回収を行う量 t

※2 自社の他事業場での処理量 t

⑥ 自ら中間処理後の残さ量 0.0 t

⑦ 自ら中間処理により減量する量 0.0 t

a 残さ物の自己処理

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量 t

⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量 t

※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量 t

b 残さ物の委託処理

b 自ら中間処理後の処理委託量 0.0 t

b-1 中間処理委託量 0.0 t

（目的別内訳）
再生利用前委託量 t
最終処分前委託量 t
下水等放流前委託量 t

b-2 最終処分委託量 t

B 直接委託処理

B 直接処理委託量 0.0 t

B-1 中間処理委託量 0.0 t

（目的別内訳）
再生利用前委託量 t
最終処分前委託量 t
下水等放流前委託量 t

B-2 最終処分委託量 t

⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量 0.0 t

⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量 t

⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量 0.0 t

⑬ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量 t

⑭ ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 t

注）右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。 なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項　目	令和6年度実績
① 排出量	0.0 t
②＋⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③＋⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類 （ア～ト）】

ｱ. 燃え殻	ｸ. 木くず	ｿ. 鉱さい
ｲ. 汚泥	ｹ. 繊維くず	ﾀ. がれき類
ｳ. 廃油	ｺ. 動植物性残さ	ﾁ. 動物のふん尿
ｴ. 廃酸	ｻ. 動物系固形不要物	ﾂ. 動物の死体
ｵ. 廃アルカリ	ｼ. ゴムくず	ﾃ. ばいじん
ｶ. 廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	ｽ. 金属くず	ﾄ. 混合廃棄物その他
ｷ. 紙くず	ｾ. ｶﾞﾗｽ・ｺﾝｸﾘｰﾄ・陶磁器くず	

産業廃棄物処理計画書

2−2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称 ： 旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	イ．汚泥

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

（単位：t/年）

有償物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量 0.0 t

※1 自社の他事業場からの搬入量 t

A 自己処理

② 自ら直接再生利用する量 t

③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量 t

④ 自ら中間処理する量 t

⑤ ④のうち熱回収を行う量 t

※2 自社の他事業場での処理量 t

⑥ 自ら中間処理後の残さ量 0.0 t

⑦ 自ら中間処理により減量する量 0.0 t

a 残さ物の自己処理

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量 t

⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量 t

※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量 t

b 残さ物の委託処理

b 自ら中間処理後の処理委託量 0.0 t

b−1 中間処理委託量 0.0 t

（目的別内訳）

再生利用前委託量	t
最終処分前委託量	t
下水等放流前委託量	t

b−2 最終処分委託量 t

B 直接委託処理

B 直接処理委託量 0.0 t

B−1 中間処理委託量 0.0 t

（目的別内訳）

再生利用前委託量	t
最終処分前委託量	t
下水等放流前委託量	t

B−2 最終処分委託量 t

⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量 0.0 t

⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量 t

⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量 0.0 t

⑬ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量 t

⑭ ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 t

注）右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。 なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項　目	令和6年度実績
① 排出量	0.0 t
②＋⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③＋⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類 （ア〜ト）】

ｱ. 燃え殻	ｸ. 木くず	ｿ. 鉱さい
ｲ. 汚泥	ｹ. 繊維くず	ﾀ. がれき類
ｳ. 廃油	ｺ. 動植物性残さ	ﾁ. 動物のふん尿
ｴ. 廃酸	ｻ. 動物系固形不要物	ﾂ. 動物の死体
ｵ. 廃アルカリ	ｼ. ゴムくず	ﾃ. ばいじん
ｶ. 廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	ｽ. 金属くず	ﾄ. 混合廃棄物その他
ｷ. 紙くず	ｾ. ｶﾞﾗｽ･ｺﾝｸﾘｰﾄ･陶磁器くず	

産業廃棄物処理計画書

2－2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称 ： 旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ウ．廃油

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

（単位：t/年）

有償物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量 0.0 t

※1 自社の他事業場からの搬入量 t

A 自己処理

② 自ら直接再生利用する量 t

③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量 t

④ 自ら中間処理する量 t

⑤ ④のうち熱回収を行う量 t

※2 自社の他事業場での処理量 t

⑥ 自ら中間処理後の残さ量 0.0 t

⑦ 自ら中間処理により減量する量 0.0 t

a 残さ物の自己処理

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量 t

⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量 t

※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量 t

b 残さ物の委託処理

b 自ら中間処理後の処理委託量 0.0 t

b-1 中間処理委託量 0.0 t

（目的別内訳）

再生利用前委託量		t
最終処分前委託量		t
下水等放流前委託量		t

b-2 最終処分委託量 t

B 直接委託処理

B 直接処理委託量 0.0 t

B-1 中間処理委託量 0.0 t

（目的別内訳）

再生利用前委託量		t
最終処分前委託量		t
下水等放流前委託量		t

B-2 最終処分委託量 t

⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量 0.0 t

⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量 t

⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量 0.0 t

⑬ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量 t

⑭ ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 t

注）右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。 なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項 目	令和6年度実績
① 排出量	0.0 t
②＋⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③＋⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類 （ア～ト）】

ｱ. 燃え殻	ｸ. 木くず	ｿ. 鉱さい
ｲ. 汚泥	ｹ. 繊維くず	ﾀ. がれき類
ｳ. 廃油	ｺ. 動植物性残さ	ﾁ. 動物のふん尿
ｴ. 廃酸	ｻ. 動物系固形不要物	ﾂ. 動物の死体
ｵ. 廃アルカリ	ｼ. ゴムくず	ﾃ. ばいじん
ｶ. 廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	ｽ. 金属くず	ﾄ. 混合廃棄物その他
ｷ. 紙くず	ｾ. ｶﾞﾗｽ･ｺﾝｸﾘｰﾄ･陶磁器くず	

産業廃棄物処理計画書

2−2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称 ： 旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	エ．廃酸

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

（単位：t/年）

有償物量

不要物等発生量

- ① 当該事業場における排出量 0.0 t
- ※1 自社の他事業場からの搬入量 t

A 自己処理
- ② 自ら直接再生利用する量 t
- ③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量 t
- ④ 自ら中間処理する量 t
- ⑤ ④のうち熱回収を行う量 t
- ※2 自社の他事業場での処理量 t
- ⑥ 自ら中間処理後の残さ量 0.0 t
- ⑦ 自ら中間処理により減量する量 0.0 t

a 残さ物の自己処理
- ⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量 t
- ⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量 t
- ※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量 t

b 残さ物の委託処理
- b 自ら中間処理後の処理委託量 0.0 t
- b−1 中間処理委託量 0.0 t
  - （目的別内訳）
  - 再生利用前委託量 t
  - 最終処分前委託量 t
  - 下水等放流前委託量 t
- b−2 最終処分委託量 t

B 直接委託処理
- B 直接処理委託量 0.0 t
- B−1 中間処理委託量 0.0 t
  - （目的別内訳）
  - 再生利用前委託量 t
  - 最終処分前委託量 t
  - 下水等放流前委託量 t
- B−2 最終処分委託量 t

- ⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量 0.0 t
- ⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量 t
- ⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量 0.0 t
- ⑬ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量 t
- ⑭ ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 t

注）右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。 なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項　目	令和6年度実績
① 排出量	0.0 t
②＋⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③＋⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類 （ア～ト）】

ｱ. 燃え殻	ｸ. 木くず	ｿ. 鉱さい
ｲ. 汚泥	ｹ. 繊維くず	ﾀ. がれき類
ｳ. 廃油	ｺ. 動植物性残さ	ﾁ. 動物のふん尿
ｴ. 廃酸	ｻ. 動物系固形不要物	ﾂ. 動物の死体
ｵ. 廃アルカリ	ｼ. ゴムくず	ﾃ. ばいじん
ｶ. 廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	ｽ. 金属くず	ﾄ. 混合廃棄物その他
ｷ. 紙くず	ｾ. ｶﾞﾗｽ･ｺﾝｸﾘｰﾄ･陶磁器くず	

産業廃棄物処理計画書

2－2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称 ： 旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	オ．廃アルカリ

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

（単位：t/年）

- 有償物量
- 不要物等発生量
- ① 当該事業場における排出量 0.0 t
- ※1 自社の他事業場からの搬入量 t

A 自己処理
- ② 自ら直接再生利用する量 t
- ③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量 t
- ④ 自ら中間処理する量 t
- ⑤ ④のうち熱回収を行う量 t
- ※2 自社の他事業場での処理量 t
- ⑥ 自ら中間処理後の残さ量 0.0 t
- ⑦ 自ら中間処理により減量する量 0.0 t

a 残さ物の自己処理
- ⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量 t
- ⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量 t
- ※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量 t

b 残さ物の委託処理
- b 自ら中間処理後の処理委託量 0.0 t
- b-1 中間処理委託量 0.0 t
  - （目的別内訳）
  - 再生利用前委託量 t
  - 最終処分前委託量 t
  - 下水等放流前委託量 t
- b-2 最終処分委託量 t

B 直接委託処理
- B 直接処理委託量 0.0 t
- B-1 中間処理委託量 0.0 t
  - （目的別内訳）
  - 再生利用前委託量 t
  - 最終処分前委託量 t
  - 下水等放流前委託量 t
- B-2 最終処分委託量 t

- ⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量 0.0 t
- ⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量 t
- ⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量 0.0 t
- ⑬ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量 t
- ⑭ ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 t

注）右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。 なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項 目	令和6年度実績
① 排出量	0.0 t
②＋⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③＋⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類 （ア～ト）】

ｱ. 燃え殻	ｸ. 木くず	ｿ. 鉱さい
ｲ. 汚泥	ｹ. 繊維くず	ﾀ. がれき類
ｳ. 廃油	ｺ. 動植物性残さ	ﾁ. 動物のふん尿
ｴ. 廃酸	ｻ. 動物系固形不要物	ﾂ. 動物の死体
ｵ. 廃アルカリ	ｼ. ゴムくず	ﾃ. ばいじん
ｶ. 廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	ｽ. 金属くず	ﾄ. 混合廃棄物その他
ｷ. 紙くず	ｾ. ｶﾞﾗｽ･ｺﾝｸﾘｰﾄ･陶磁器くず	

産業廃棄物処理計画書

2－2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称 ： 旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	カ. 廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

（単位：t/年）

有償物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量 14.2 t

※1 自社の他事業場からの搬入量 0.0 t

A 自己処理

② 自ら直接再生利用する量 0.0 t

③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量 0.0 t

④ 自ら中間処理する量 1.6 t

⑤ ④のうち熱回収を行う量 0.0 t

※2 自社の他事業場での処理量 0.0 t

⑥ 自ら中間処理後の残さ量 1.6 t

⑦ 自ら中間処理により減量する量 0.0 t

a 残さ物の自己処理

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量 0.3 t

⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量 0.0 t

※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量 0.0 t

b 残さ物の委託処理

b 自ら中間処理後の処理委託量 1.3 t

b-1 中間処理委託量 1.3 t

（目的別内訳）

再生利用前委託量	1.3 t
最終処分前委託量	0.0 t
下水等放流前委託量	0.0 t

b-2 最終処分委託量 0.0 t

B 直接委託処理

B 直接処理委託量 12.6 t

B-1 中間処理委託量 12.6 t

（目的別内訳）

再生利用前委託量	11.3 t
最終処分前委託量	1.3 t
下水等放流前委託量	0.0 t

B-2 最終処分委託量 0.0 t

⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量 13.9 t

⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量 11.6 t

⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量 12.6 t

⑬ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量 0.0 t

⑭ ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 1.9 t

注）右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。 なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項 目	令和6年度実績
① 排出量	12.9 t
②＋⑧ 自ら再生利用を行った量	0.3 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③＋⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	12.6 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	10.5 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	11.5 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	1.8 t

【産業廃棄物の種類 （ア～ト）】

ｱ. 燃え殻	ｸ. 木くず	ｿ. 鉱さい
ｲ. 汚泥	ｹ. 繊維くず	ﾀ. がれき類
ｳ. 廃油	ｺ. 動植物性残さ	ﾁ. 動物のふん尿
ｴ. 廃酸	ｻ. 動物系固形不要物	ﾂ. 動物の死体
ｵ. 廃アルカリ	ｼ. ゴムくず	ﾃ. ばいじん
ｶ. 廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	ｽ. 金属くず	ﾄ. 混合廃棄物その他
ｷ. 紙くず	ｾ. ｶﾞﾗｽ･ｺﾝｸﾘｰﾄ･陶磁器くず	

産業廃棄物処理計画書

2－2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称　：　旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	キ.　紙くず

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

「紙くず」には業種指定があり、該当業種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です。
【該当業種】パルプ、紙又は紙加工品の製造業、新聞業（新聞巻取紙を使用して印刷発行を行うもの）、出版業（印刷出版を行うもの）、製本業、印刷物加工業、建設業（工作物の新築、改築、除去に伴って生じたもの）

（単位：t/年）

有償物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量　1.2 t

※1 自社の他事業場からの搬入量　0.0 t

A 自己処理

② 自ら直接再生利用する量　0.0 t

③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量　0.0 t

④ 自ら中間処理する量　1.2 t

⑤ ④のうち熱回収を行う量　0.0 t

※2 自社の他事業場での処理量　0.0 t

⑥ 自ら中間処理後の残さ量　1.2 t

⑦ 自ら中間処理により減量する量　0.0 t

a 残さ物の自己処理

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量　1.1 t

⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量　0.0 t

※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量　0.0 t

b 残さ物の委託処理

b 自ら中間処理後の処理委託量　0.1 t

b-1 中間処理委託量　0.1 t

（目的別内訳）
再生利用前委託量　0.1 t
最終処分前委託量　0.0 t
下水等放流前委託量　0.0 t

b-2 最終処分委託量　0.0 t

B 直接委託処理

B 直接処理委託量　0.0 t

B-1 中間処理委託量　0.0 t

（目的別内訳）
再生利用前委託量　0.0 t
最終処分前委託量　0.0 t
下水等放流前委託量　0.0 t

B-2 最終処分委託量　0.0 t

⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量　0.1 t

⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量　0.0 t

⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量　0.1 t

⑬ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量　0.0 t

⑭ ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量　0.0 t

注）右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。 なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項　目	令和6年度実績
① 排出量	1.1 t
②＋⑧ 自ら再生利用を行った量	1.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③＋⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.1 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.1 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類 （ア～ト）】

ｱ. 燃え殻	ｸ. 木くず	ｿ. 鉱さい
ｲ. 汚泥	ｹ. 繊維くず	ﾀ. がれき類
ｳ. 廃油	ｺ. 動植物性残さ	ﾁ. 動物のふん尿
ｴ. 廃酸	ｻ. 動物系固形不要物	ﾂ. 動物の死体
ｵ. 廃アルカリ	ｼ. ゴムくず	ﾃ. ばいじん
ｶ. 廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	ｽ. 金属くず	ﾄ. 混合廃棄物その他
ｷ. 紙くず	ｾ. ｶﾞﾗｽ･ｺﾝｸﾘｰﾄ･陶磁器くず	

産業廃棄物処理計画書

2−2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称 ： 旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ク. 木くず

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

「木くず」には業種指定等があり、該当業種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です。
【該当業種】木材又は木製品の製造業（家具製造業を含む）、パルプ製造業、輸入木材の卸売業及び物品賃貸業に係るもの、建設業（工作物の新築、改築、除去に伴って生じたもの）。
【全業種対象】貨物の流通のために使用したパレット（パレットへの貨物の積付けのために使用したこん包用の木材を含む。）

（単位：t/年）

項目	量
有償物量	
不要物等発生量	
① 当該事業場における排出量	28.3 t
※1 自社の他事業場からの搬入量	0.0 t
A 自己処理	
② 自ら直接再生利用する量	0.0 t
③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量	0.0 t
④ 自ら中間処理する量	1.1 t
⑤ ④のうち熱回収を行う量	0.0 t
※2 自社の他事業場での処理量	0.0 t
⑥ 自ら中間処理後の残さ量	1.1 t
⑦ 自ら中間処理により減量する量	0.0 t
a 残さ物の自己処理	
⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量	0.0 t
⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量	0.0 t
※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量	0.0 t
b 残さ物の委託処理	
b 自ら中間処理後の処理委託量	1.1 t
b-1 中間処理委託量	1.1 t
（目的別内訳）再生利用前委託量	1.1 t
（目的別内訳）最終処分前委託量	0.0 t
（目的別内訳）下水等放流前委託量	0.0 t
b-2 最終処分委託量	0.0 t
B 直接委託処理	
B 直接処理委託量	27.2 t
B-1 中間処理委託量	27.2 t
（目的別内訳）再生利用前委託量	23.0 t
（目的別内訳）最終処分前委託量	4.2 t
（目的別内訳）下水等放流前委託量	0.0 t
B-2 最終処分委託量	0.0 t
⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量	28.3 t
⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量	27.1 t
⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量	24.1 t
⑬ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	4.2 t

注）右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。 なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和6年度実績
① 排出量	25.7 t
②＋⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③＋⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	25.7 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	24.7 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	21.9 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	3.8 t

【産業廃棄物の種類 （ア～ト）】

ｱ. 燃え殻	ｸ. 木くず	ｿ. 鉱さい
ｲ. 汚泥	ｹ. 繊維くず	ﾀ. がれき類
ｳ. 廃油	ｺ. 動植物性残さ	ﾁ. 動物のふん尿
ｴ. 廃酸	ｻ. 動物系固形不要物	ﾂ. 動物の死体
ｵ. 廃アルカリ	ｼ. ゴムくず	ﾃ. ばいじん
ｶ. 廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	ｽ. 金属くず	ﾄ. 混合廃棄物その他
ｷ. 紙くず	ｾ. ｶﾞﾗｽ･ｺﾝｸﾘｰﾄ･陶磁器くず	

産業廃棄物処理計画書

2－2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称 ： 旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ケ．繊維くず

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

「繊維くず」には業種指定があり、該当業種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です。
【該当業種】繊維工業（衣服その他の繊維製品製造業を除く）、建設業（工作物の新築、改築、除去に伴って生じたもの）

（単位：t/年）

有償物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量 0.0 t

※1 自社の他事業場からの搬入量 t

A 自己処理

② 自ら直接再生利用する量 t

③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量 t

④ 自ら中間処理する量 t

⑤ ④のうち熱回収を行う量 t

※2 自社の他事業場での処理量 t

⑥ 自ら中間処理後の残さ量 0.0 t

⑦ 自ら中間処理により減量する量 0.0 t

a 残さ物の自己処理

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量 t

⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量 t

※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量 t

b 残さ物の委託処理

b 自ら中間処理後の処理委託量 0.0 t

b-1 中間処理委託量 0.0 t

（目的別内訳）
再生利用前委託量 t
最終処分前委託量 t
下水等放流前委託量 t

b-2 最終処分委託量 t

B 直接委託処理

B 直接処理委託量 0.0 t

B-1 中間処理委託量 0.0 t

（目的別内訳）
再生利用前委託量 t
最終処分前委託量 t
下水等放流前委託量 t

B-2 最終処分委託量 t

⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量 0.0 t

⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量 t

⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量 0.0 t

⑬ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量 t

⑭ ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 t

注）右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。 なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項　目	令和6年度実績
① 排出量	0.0 t
②＋⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③＋⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類 （ア～ト）】

ｱ. 燃え殻	ｸ. 木くず	ｿ. 鉱さい
ｲ. 汚泥	ｹ. 繊維くず	ﾀ. がれき類
ｳ. 廃油	ｺ. 動植物性残さ	ﾁ. 動物のふん尿
ｴ. 廃酸	ｻ. 動物系固形不要物	ﾂ. 動物の死体
ｵ. 廃アルカリ	ｼ. ゴムくず	ﾃ. ばいじん
ｶ. 廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	ｽ. 金属くず	ﾄ. 混合廃棄物その他
ｷ. 紙くず	ｾ. ｶﾞﾗｽ･ｺﾝｸﾘｰﾄ･陶磁器くず	

産業廃棄物処理計画書

2－2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称 ： 旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	コ. 動植物性残さ

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

「動植物性残さ」には業種指定があり、該当業種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です。
【該当業種】食料品製造業、医薬品製造業、香料製造業において原料として使用した動物又は植物の固形状の不要物

（単位：t/年）

有償物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量 0.0 t

※1 自社の他事業場からの搬入量 t

A 自己処理

② 自ら直接再生利用する量 t

③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量 t

④ 自ら中間処理する量 t

⑤ ④のうち熱回収を行う量 t

※2 自社の他事業場での処理量 t

⑥ 自ら中間処理後の残さ量 0.0 t

⑦ 自ら中間処理により減量する量 0.0 t

a 残さ物の自己処理

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量 t

⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量 t

※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量 t

b 残さ物の委託処理

b 自ら中間処理後の処理委託量 0.0 t

b-1 中間処理委託量 0.0 t

（目的別内訳）
再生利用前委託量 t
最終処分前委託量 t
下水等放流前委託量 t

b-2 最終処分委託量 t

B 直接委託処理

B 直接処理委託量 0.0 t

B-1 中間処理委託量 0.0 t

（目的別内訳）
再生利用前委託量 t
最終処分前委託量 t
下水等放流前委託量 t

B-2 最終処分委託量 t

⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量 0.0 t

⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量 t

⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量 0.0 t

⑬ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量 t

⑭ ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 t

注）右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。 なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項　目	令和6年度実績
① 排出量	0.0 t
②＋⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③＋⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類 （ア～ト）】

ｱ. 燃え殻	ｸ. 木くず	ｿ. 鉱さい
ｲ. 汚泥	ｹ. 繊維くず	ﾀ. がれき類
ｳ. 廃油	ｺ. 動植物性残さ	ﾁ. 動物のふん尿
ｴ. 廃酸	ｻ. 動物系固形不要物	ﾂ. 動物の死体
ｵ. 廃アルカリ	ｼ. ゴムくず	ﾃ. ばいじん
ｶ. 廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	ｽ. 金属くず	ﾄ. 混合廃棄物その他
ｷ. 紙くず	ｾ. ｶﾞﾗｽ･ｺﾝｸﾘｰﾄ･陶磁器くず	

産業廃棄物処理計画書

2−2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称 ： 旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部

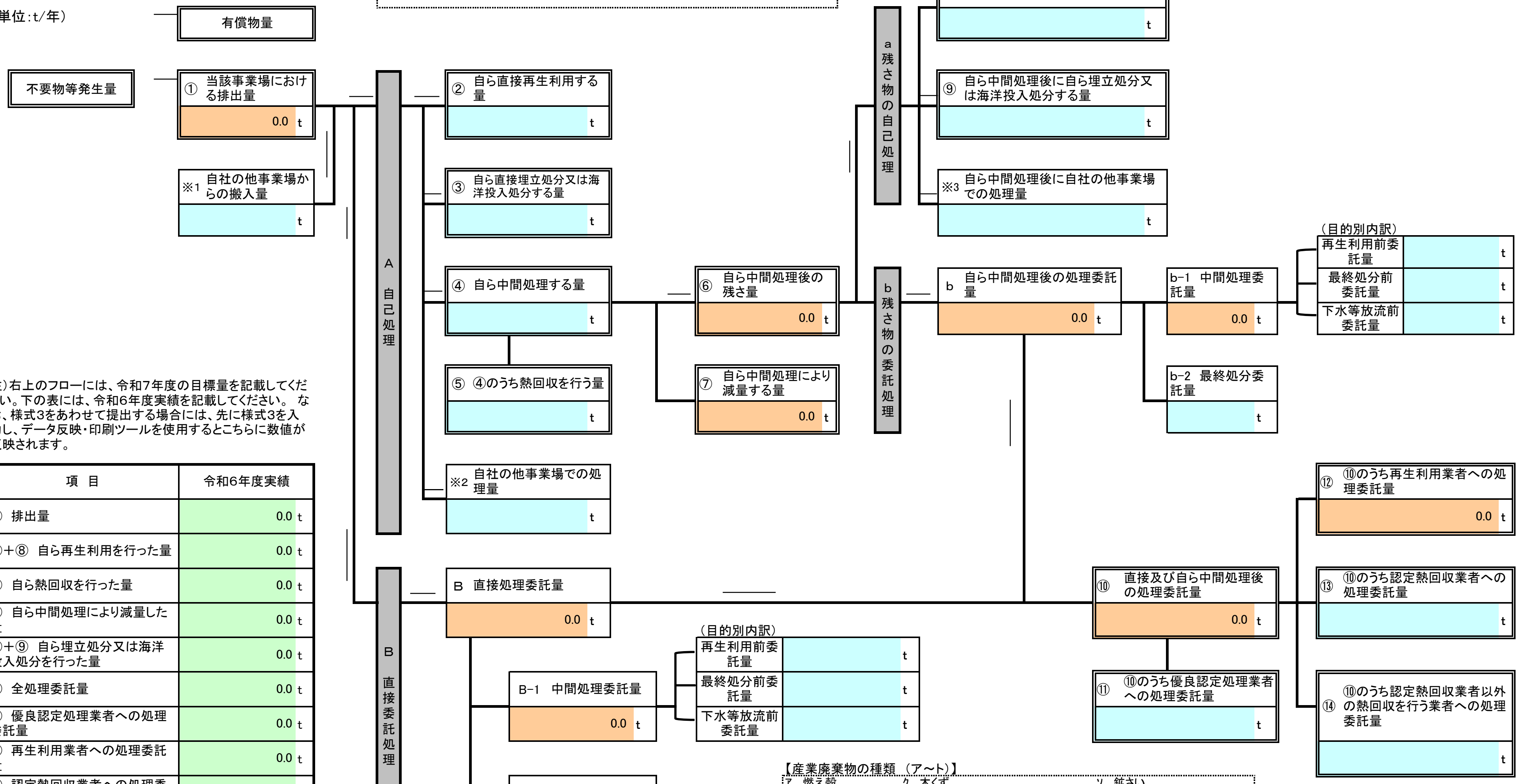
令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	サ．動物系固形不要物

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

「動物系固形不要物」には業種指定があり、該当業種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です。
【該当業種】と畜場においてとさつし、又は解体した獣畜及び食鳥処理場において食鳥処理をした食鳥に係る固形状の不要物

（単位：t/年）



注）右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。 なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項 目	令和6年度実績
① 排出量	0.0 t
②＋⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③＋⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類 （ア～ト）】

ｱ. 燃え殻	ｸ. 木くず	ｿ. 鉱さい
ｲ. 汚泥	ｹ. 繊維くず	ﾀ. がれき類
ｳ. 廃油	ｺ. 動植物性残さ	ﾁ. 動物のふん尿
ｴ. 廃酸	ｻ. 動物系固形不要物	ﾂ. 動物の死体
ｵ. 廃アルカリ	ｼ. ゴムくず	ﾃ. ばいじん
ｶ. 廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	ｽ. 金属くず	ﾄ. 混合廃棄物その他
ｷ. 紙くず	ｾ. ｶﾞﾗｽ･ｺﾝｸﾘｰﾄ･陶磁器くず	

産業廃棄物処理計画書

2－2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称　：　旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	シ．ゴムくず

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

（単位：t/年）

有償物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量　0.0 t

※1 自社の他事業場からの搬入量　t

A 自己処理

② 自ら直接再生利用する量　t

③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量　t

④ 自ら中間処理する量　t

⑤ ④のうち熱回収を行う量　t

※2 自社の他事業場での処理量　t

⑥ 自ら中間処理後の残さ量　0.0 t

⑦ 自ら中間処理により減量する量　0.0 t

a 残さ物の自己処理

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量　t

⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量　t

※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量　t

b 残さ物の委託処理

b 自ら中間処理後の処理委託量　0.0 t

b-1 中間処理委託量　0.0 t

（目的別内訳）
- 再生利用前委託量　t
- 最終処分前委託量　t
- 下水等放流前委託量　t

b-2 最終処分委託量　t

B 直接委託処理

B 直接処理委託量　0.0 t

B-1 中間処理委託量　0.0 t

（目的別内訳）
- 再生利用前委託量　t
- 最終処分前委託量　t
- 下水等放流前委託量　t

B-2 最終処分委託量　t

⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量　0.0 t

⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量　t

⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量　0.0 t

⑬ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量　t

⑭ ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量　t

注）右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。 なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項　目	令和6年度実績
① 排出量	0.0 t
②＋⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③＋⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類（ア～ト）】

ｱ. 燃え殻	ｸ. 木くず	ｿ. 鉱さい
ｲ. 汚泥	ｹ. 繊維くず	ﾀ. がれき類
ｳ. 廃油	ｺ. 動植物性残さ	ﾁ. 動物のふん尿
ｴ. 廃酸	ｻ. 動物系固形不要物	ﾂ. 動物の死体
ｵ. 廃アルカリ	ｼ. ゴムくず	ﾃ. ばいじん
ｶ. 廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	ｽ. 金属くず	ﾄ. 混合廃棄物その他
ｷ. 紙くず	ｾ. ｶﾞﾗｽ･ｺﾝｸﾘｰﾄ･陶磁器くず	

産業廃棄物処理計画書

2－2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称　：　旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ス. 金属くず

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

（単位：t/年）

有償物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量　2.2 t

※1 自社の他事業場からの搬入量　0.0 t

A 自己処理

② 自ら直接再生利用する量　0.0 t

③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量　0.0 t

④ 自ら中間処理する量　2.2 t

⑤ ④のうち熱回収を行う量　0.0 t

※2 自社の他事業場での処理量　0.0 t

⑥ 自ら中間処理後の残さ量　2.2 t

⑦ 自ら中間処理により減量する量　0.0 t

a 残さ物の自己処理

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量　2.2 t

⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量　0.0 t

※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量　0.0 t

b 残さ物の委託処理

b 自ら中間処理後の処理委託量　0.0 t

b-1 中間処理委託量　0.0 t

（目的別内訳）
再生利用前委託量　0.0 t
最終処分前委託量　0.0 t
下水等放流前委託量　0.0 t

b-2 最終処分委託量　0.0 t

B 直接委託処理

B 直接処理委託量　0.0 t

B-1 中間処理委託量　0.0 t

（目的別内訳）
再生利用前委託量　0.0 t
最終処分前委託量　0.0 t
下水等放流前委託量　0.0 t

B-2 最終処分委託量　0.0 t

⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量　0.0 t

⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量　0.0 t

⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量　0.0 t

⑬ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量　0.0 t

⑭ ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量　0.0 t

注）右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。 なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項　目	令和6年度実績
① 排出量	2.0 t
②＋⑧ 自ら再生利用を行った量	2.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③＋⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類（ア～ト）】

ｱ. 燃え殻	ｸ. 木くず	ｿ. 鉱さい
ｲ. 汚泥	ｹ. 繊維くず	ﾀ. がれき類
ｳ. 廃油	ｺ. 動植物性残さ	ﾁ. 動物のふん尿
ｴ. 廃酸	ｻ. 動物系固形不要物	ﾂ. 動物の死体
ｵ. 廃アルカリ	ｼ. ゴムくず	ﾃ. ばいじん
ｶ. 廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	ｽ. 金属くず	ﾄ. 混合廃棄物その他
ｷ. 紙くず	ｾ. ｶﾞﾗｽ･ｺﾝｸﾘｰﾄ･陶磁器くず	

産業廃棄物処理計画書

2－2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称 ： 旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	セ. ｶﾞﾗｽ･ｺﾝｸﾘｰﾄ･陶磁器くず

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

（単位：t/年）

項目	量
有償物量	
不要物等発生量	
① 当該事業場における排出量	32.4 t
※1 自社の他事業場からの搬入量	0.0 t
A 自己処理	
② 自ら直接再生利用する量	0.0 t
③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量	0.0 t
④ 自ら中間処理する量	2.4 t
⑤ ④のうち熱回収を行う量	0.0 t
※2 自社の他事業場での処理量	0.0 t
⑥ 自ら中間処理後の残さ量	2.4 t
⑦ 自ら中間処理により減量する量	0.0 t
a 残さ物の自己処理	
⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量	0.0 t
⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量	0.0 t
※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量	0.0 t
b 残さ物の委託処理	
b 自ら中間処理後の処理委託量	2.4 t
b-1 中間処理委託量	2.4 t
（目的別内訳）再生利用前委託量	2.4 t
（目的別内訳）最終処分前委託量	0.0 t
（目的別内訳）下水等放流前委託量	0.0 t
b-2 最終処分委託量	0.0 t
B 直接委託処理	
B 直接処理委託量	30.0 t
B-1 中間処理委託量	30.0 t
（目的別内訳）再生利用前委託量	21.4 t
（目的別内訳）最終処分前委託量	8.6 t
（目的別内訳）下水等放流前委託量	0.0 t
B-2 最終処分委託量	0.0 t
⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量	32.4 t
⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量	7.9 t
⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量	23.8 t
⑬ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

注）右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。 なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項　目	令和6年度実績
① 排出量	29.6 t
②＋⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③＋⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	29.6 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	7.2 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	21.7 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類 （ア～ト）】

ｱ. 燃え殻	ｸ. 木くず	ｿ. 鉱さい
ｲ. 汚泥	ｹ. 繊維くず	ﾀ. がれき類
ｳ. 廃油	ｺ. 動植物性残さ	ﾁ. 動物のふん尿
ｴ. 廃酸	ｻ. 動物系固形不要物	ﾂ. 動物の死体
ｵ. 廃アルカリ	ｼ. ゴムくず	ﾃ. ばいじん
ｶ. 廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	ｽ. 金属くず	ﾄ. 混合廃棄物その他
ｷ. 紙くず	ｾ. ｶﾞﾗｽ･ｺﾝｸﾘｰﾄ･陶磁器くず	

産業廃棄物処理計画書

2－2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称 ： 旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ソ．鉱さい

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

（単位：t/年）

有償物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量 0.0 t

※1 自社の他事業場からの搬入量 t

A 自己処理

② 自ら直接再生利用する量 t

③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量 t

④ 自ら中間処理する量 t

⑤ ④のうち熱回収を行う量 t

※2 自社の他事業場での処理量 t

⑥ 自ら中間処理後の残さ量 0.0 t

⑦ 自ら中間処理により減量する量 0.0 t

a 残さ物の自己処理

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量 t

⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量 t

※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量 t

b 残さ物の委託処理

b 自ら中間処理後の処理委託量 0.0 t

b-1 中間処理委託量 0.0 t

（目的別内訳）
再生利用前委託量 t
最終処分前委託量 t
下水等放流前委託量 t

b-2 最終処分委託量 t

B 直接委託処理

B 直接処理委託量 0.0 t

B-1 中間処理委託量 0.0 t

（目的別内訳）
再生利用前委託量 t
最終処分前委託量 t
下水等放流前委託量 t

B-2 最終処分委託量 t

⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量 0.0 t

⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量 t

⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量 0.0 t

⑬ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量 t

⑭ ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 t

注）右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。 なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項　目	令和6年度実績
① 排出量	0.0 t
②＋⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③＋⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類 （ア～ト）】

ｱ. 燃え殻	ｸ. 木くず	ｿ. 鉱さい
ｲ. 汚泥	ｹ. 繊維くず	ﾀ. がれき類
ｳ. 廃油	ｺ. 動植物性残さ	ﾁ. 動物のふん尿
ｴ. 廃酸	ｻ. 動物系固形不要物	ﾂ. 動物の死体
ｵ. 廃アルカリ	ｼ. ゴムくず	ﾃ. ばいじん
ｶ. 廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	ｽ. 金属くず	ﾄ. 混合廃棄物その他
ｷ. 紙くず	ｾ. ｶﾞﾗｽ･ｺﾝｸﾘｰﾄ･陶磁器くず	

産業廃棄物処理計画書

2－2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称 ： 旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	タ. がれき類

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

（単位：t/年）

有償物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量 1,830.5 t

※1 自社の他事業場からの搬入量 0.0 t

A 自己処理

② 自ら直接再生利用する量 0.0 t

③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量 0.0 t

④ 自ら中間処理する量 0.2 t

⑤ ④のうち熱回収を行う量 0.0 t

※2 自社の他事業場での処理量 0.0 t

⑥ 自ら中間処理後の残さ量 0.2 t

⑦ 自ら中間処理により減量する量 0.0 t

a 残さ物の自己処理

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量 0.0 t

⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量 0.0 t

※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量 0.0 t

b 残さ物の委託処理

b 自ら中間処理後の処理委託量 0.2 t

b-1 中間処理委託量 0.2 t

（目的別内訳）

再生利用前委託量	0.2 t
最終処分前委託量	0.0 t
下水等放流前委託量	0.0 t

b-2 最終処分委託量 0.0 t

B 直接委託処理

B 直接処理委託量 1,830.3 t

B-1 中間処理委託量 1,830.3 t

（目的別内訳）

再生利用前委託量	1,830.3 t
最終処分前委託量	0.0 t
下水等放流前委託量	0.0 t

B-2 最終処分委託量 0.0 t

⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量 1,830.5 t

⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量 0.0 t

⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量 1,830.5 t

⑬ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量 0.0 t

⑭ ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 0.0 t

注）右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。 なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項 目	令和6年度実績
① 排出量	1,666.9 t
②＋⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③＋⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	1,666.9 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	1,666.9 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類 （ア～ト）】

ｱ. 燃え殻	ｸ. 木くず	ｿ. 鉱さい
ｲ. 汚泥	ｹ. 繊維くず	ﾀ. がれき類
ｳ. 廃油	ｺ. 動植物性残さ	ﾁ. 動物のふん尿
ｴ. 廃酸	ｻ. 動物系固形不要物	ﾂ. 動物の死体
ｵ. 廃アルカリ	ｼ. ゴムくず	ﾃ. ばいじん
ｶ. 廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	ｽ. 金属くず	ﾄ. 混合廃棄物その他
ｷ. 紙くず	ｾ. ｶﾞﾗｽ･ｺﾝｸﾘｰﾄ･陶磁器くず	

産業廃棄物処理計画書

2−2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称 ： 旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	チ．動物のふん尿

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

「動物のふん尿」には業種指定があり、該当業種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です。
【該当業種】畜産農業

（単位：t/年）

有償物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量　0.0 t

※1 自社の他事業場からの搬入量　t

A 自己処理

② 自ら直接再生利用する量　t

③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量　t

④ 自ら中間処理する量　t

⑤ ④のうち熱回収を行う量　t

※2 自社の他事業場での処理量　t

⑥ 自ら中間処理後の残さ量　0.0 t

⑦ 自ら中間処理により減量する量　0.0 t

a 残さ物の自己処理

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量　t

⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量　t

※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量　t

b 残さ物の委託処理

b 自ら中間処理後の処理委託量　0.0 t

b−1 中間処理委託量　0.0 t

（目的別内訳）

再生利用前委託量	t
最終処分前委託量	t
下水等放流前委託量	t

b−2 最終処分委託量　t

B 直接委託処理

B 直接処理委託量　0.0 t

B−1 中間処理委託量　0.0 t

（目的別内訳）

再生利用前委託量	t
最終処分前委託量	t
下水等放流前委託量	t

B−2 最終処分委託量　t

⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量　0.0 t

⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量　t

⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量　0.0 t

⑬ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量　t

⑭ ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量　t

注）右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。 なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項　目	令和6年度実績
① 排出量	0.0 t
②＋⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③＋⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類 （ア〜ト）】

ｱ. 燃え殻	ｸ. 木くず	ｿ. 鉱さい
ｲ. 汚泥	ｹ. 繊維くず	ﾀ. がれき類
ｳ. 廃油	ｺ. 動植物性残さ	ﾁ. 動物のふん尿
ｴ. 廃酸	ｻ. 動物系固形不要物	ﾂ. 動物の死体
ｵ. 廃アルカリ	ｼ. ゴムくず	ﾃ. ばいじん
ｶ. 廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	ｽ. 金属くず	ﾄ. 混合廃棄物その他
ｷ. 紙くず	ｾ. ｶﾞﾗｽ・ｺﾝｸﾘｰﾄ・陶磁器くず	

産業廃棄物処理計画書

2－2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称 ： 旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ツ．動物の死体

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

「動物の死体」には業種指定があり、該当業種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です。
【該当業種】畜産農業

（単位：t/年）

有償物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量 0.0 t

※1 自社の他事業場からの搬入量 t

A 自己処理

② 自ら直接再生利用する量 t

③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量 t

④ 自ら中間処理する量 t

⑤ ④のうち熱回収を行う量 t

※2 自社の他事業場での処理量 t

⑥ 自ら中間処理後の残さ量 0.0 t

⑦ 自ら中間処理により減量する量 0.0 t

a 残さ物の自己処理

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量 t

⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量 t

※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量 t

b 残さ物の委託処理

b 自ら中間処理後の処理委託量 0.0 t

b-1 中間処理委託量 0.0 t

（目的別内訳）
再生利用前委託量 t
最終処分前委託量 t
下水等放流前委託量 t

b-2 最終処分委託量 t

B 直接委託処理

B 直接処理委託量 0.0 t

B-1 中間処理委託量 0.0 t

（目的別内訳）
再生利用前委託量 t
最終処分前委託量 t
下水等放流前委託量 t

B-2 最終処分委託量 t

⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量 0.0 t

⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量 t

⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量 0.0 t

⑬ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量 t

⑭ ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 t

注）右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。 なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項　目	令和6年度実績
① 排出量	0.0 t
②＋⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③＋⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類 （ア～ト）】

ｱ. 燃え殻	ｸ. 木くず	ｿ. 鉱さい
ｲ. 汚泥	ｹ. 繊維くず	ﾀ. がれき類
ｳ. 廃油	ｺ. 動植物性残さ	ﾁ. 動物のふん尿
ｴ. 廃酸	ｻ. 動物系固形不要物	ﾂ. 動物の死体
ｵ. 廃アルカリ	ｼ. ゴムくず	ﾃ. ばいじん
ｶ. 廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	ｽ. 金属くず	ﾄ. 混合廃棄物その他
ｷ. 紙くず	ｾ. ｶﾞﾗｽ･ｺﾝｸﾘｰﾄ･陶磁器くず	

産業廃棄物処理計画書

2－2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称　：　旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	テ．ぱいじん

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

（単位：t/年）

有償物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量　0.0 t

※1 自社の他事業場からの搬入量　t

A 自己処理

② 自ら直接再生利用する量　t

③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量　t

④ 自ら中間処理する量　t

⑤ ④のうち熱回収を行う量　t

※2 自社の他事業場での処理量　t

⑥ 自ら中間処理後の残さ量　0.0 t

⑦ 自ら中間処理により減量する量　0.0 t

a 残さ物の自己処理

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量　t

⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量　t

※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量　t

b 残さ物の委託処理

b 自ら中間処理後の処理委託量　0.0 t

b-1 中間処理委託量　0.0 t

（目的別内訳）

再生利用前委託量	t
最終処分前委託量	t
下水等放流前委託量	t

b-2 最終処分委託量　t

B 直接委託処理

B 直接処理委託量　0.0 t

B-1 中間処理委託量　0.0 t

（目的別内訳）

再生利用前委託量	t
最終処分前委託量	t
下水等放流前委託量	t

B-2 最終処分委託量　t

⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量　0.0 t

⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量　t

⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量　0.0 t

⑬ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量　t

⑭ ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量　t

注）右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。 なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項　目	令和6年度実績
① 排出量	0.0 t
②＋⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③＋⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類　（ア～ト）】

ｱ. 燃え殻	ｸ. 木くず	ｿ. 鉱さい
ｲ. 汚泥	ｹ. 繊維くず	ﾀ. がれき類
ｳ. 廃油	ｺ. 動植物性残さ	ﾁ. 動物のふん尿
ｴ. 廃酸	ｻ. 動物系固形不要物	ﾂ. 動物の死体
ｵ. 廃アルカリ	ｼ. ゴムくず	ﾃ. ばいじん
ｶ. 廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	ｽ. 金属くず	ﾄ. 混合廃棄物その他
ｷ. 紙くず	ｾ. ｶﾞﾗｽ･ｺﾝｸﾘｰﾄ･陶磁器くず	

産業廃棄物処理計画書

2−2	法定	自主
	○	

別紙処理フロー

事業場名称 ： 旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部

令和7年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ト．混合廃棄物その他

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

（単位：t/年）

有償物量

不要物等発生量

① 当該事業場における排出量 10.8 t

※1 自社の他事業場からの搬入量 0.0 t

A 自己処理

② 自ら直接再生利用する量 0.0 t

③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量 0.0 t

④ 自ら中間処理する量 0.0 t

⑤ ④のうち熱回収を行う量 0.0 t

※2 自社の他事業場での処理量 0.0 t

⑥ 自ら中間処理後の残さ量 0.0 t

⑦ 自ら中間処理により減量する量 0.0 t

a 残さ物の自己処理

⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量 0.0 t

⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量 0.0 t

※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量 0.0 t

b 残さ物の委託処理

b 自ら中間処理後の処理委託量 0.0 t

b−1 中間処理委託量 0.0 t

b−2 最終処分委託量 0.0 t

（目的別内訳）

再生利用前委託量	0.0 t
最終処分前委託量	0.0 t
下水等放流前委託量	0.0 t

B 直接委託処理

B 直接処理委託量 10.8 t

B−1 中間処理委託量 8.1 t

B−2 最終処分委託量 2.7 t

（目的別内訳）

再生利用前委託量	5.9 t
最終処分前委託量	2.2 t
下水等放流前委託量	0.0 t

⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量 10.8 t

⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量 8.9 t

⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量 5.9 t

⑬ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量 0.0 t

⑭ ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 0.6 t

注）右上のフローには、令和7年度の目標量を記載してください。下の表には、令和6年度実績を記載してください。
なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項 目	令和6年度実績
① 排出量	9.9 t
②＋⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③＋⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	9.9 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	8.1 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	5.4 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.5 t

【産業廃棄物の種類 （ア～ト）】

ｱ. 燃え殻	ｸ. 木くず	ｿ. 鉱さい
ｲ. 汚泥	ｹ. 繊維くず	ﾀ. がれき類
ｳ. 廃油	ｺ. 動植物性残さ	ﾁ. 動物のふん尿
ｴ. 廃酸	ｻ. 動物系固形不要物	ﾂ. 動物の死体
ｵ. 廃アルカリ	ｼ. ゴムくず	ﾃ. ばいじん
ｶ. 廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	ｽ. 金属くず	ﾄ. 混合廃棄物その他
ｷ. 紙くず	ｾ. ｶﾞﾗｽ･ｺﾝｸﾘｰﾄ･陶磁器くず	

産業廃棄物処理計画書

2－1	法定	自主
	○	

別紙一括表

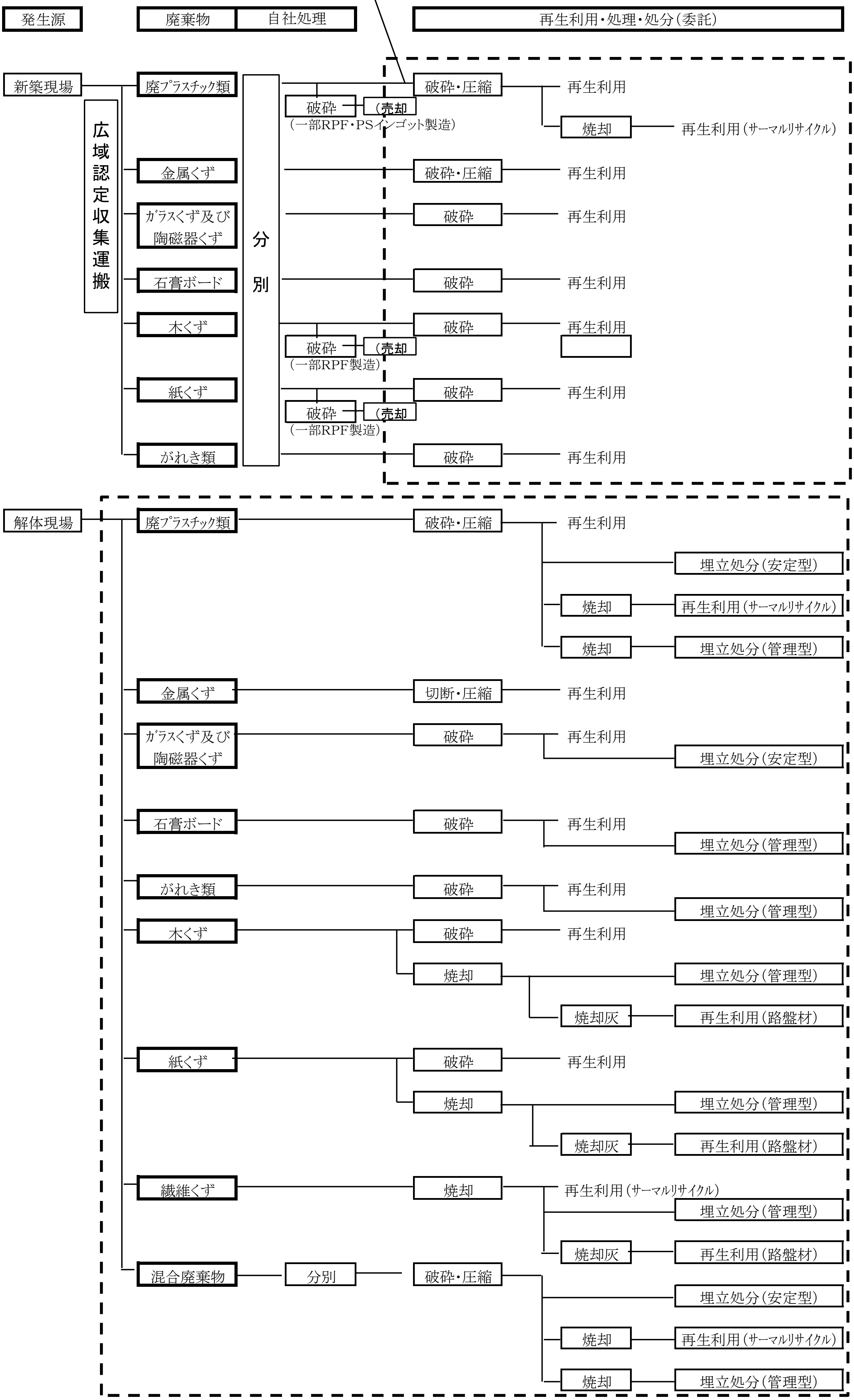
事業場名称: 旭化成ホームズ株式会社施工本部建設部

（単位:トン）

区分	項目	ア 燃え殻	イ 汚泥	ウ 廃油	エ 廃酸	オ 廃アルカリ	カ 廃プラスチック	キ 紙くず	ク 木くず	ケ 繊維くず	コ 動植物性残さ	サ 動物系固形不要物	シ ゴムくず	ス 金属くず	セ ガラス・コンクリート・陶磁器くず	ソ 鉱さい	タ がれき類	チ 動物のふん尿	ツ 動物の死体	テ ばいじん	ト 混合廃棄物その他	合計
令和6年度実績	① 排出量						12.9	1.1	25.7					2.0	29.6		1,666.9				9.9	1,748.1
令和6年度実績	②+⑧ 自ら再生利用を行った量						0.3	1.0	0					2.0	0		0				0	3.3
令和6年度実績	⑤ 自ら熱回収を行った量						0	0	0					0	0		0				0	0
令和6年度実績	⑦ 自ら中間処理により減量した量						0	0	0					0	0		0				0	0
令和6年度実績	③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量						0	0	0					0	0		0				0	0
令和6年度実績	⑩ 全処理委託量						12.6	0.1	25.7					0	29.6		1,666.9				9.9	1,744.8
令和6年度実績	⑪ 優良認定処理業者への処理委託量						10.5	0	24.7					0	7.2		0				8.1	50.5
令和6年度実績	⑫ 再生利用業者への処理委託量						11.5	0.1	21.9					0	21.7		1,666.9				5.4	1,727.5
令和6年度実績	⑬ 認定熱回収業者への処理委託量						0	0	0					0	0		0				0	0
令和6年度実績	⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量						1.8	0	3.8					0	0		0				0.5	6.1
令和7年度目標	① 当該事業場における排出量						14.2	1.2	28.3					2.2	32.4		1,830.5				10.8	1,919.6
令和7年度目標	※1 自社の他事業場からの搬入量																					
令和7年度目標 A 自己処理	② 自ら直接再生利用する量																					
令和7年度目標 A 自己処理	③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量																					
令和7年度目標 A 自己処理	④ 自ら中間処理する量						1.6	1.2	1.1					2.2	2.4		0.2					8.7
令和7年度目標 A 自己処理	⑤ ④のうち熱回収を行う量																					
令和7年度目標 A 自己処理	※2 自社の他事業場での処理量																					
令和7年度目標 A 自己処理	⑥ 自ら中間処理後の残さ量						1.6	1.2	1.1					2.2	2.4		0.2					8.7
令和7年度目標 A 自己処理	⑦ 自ら中間処理により減量する量																					
令和7年度目標 A 自己処理 a 残さ物の自己処理	⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量						0.3	1.1						2.2								3.6
令和7年度目標 A 自己処理 a 残さ物の自己処理	⑨ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又は海洋投入処分する量																					
令和7年度目標 A 自己処理 a 残さ物の自己処理	※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量																					
令和7年度目標 A 自己処理	b 自ら中間処理後の処理委託量						1.3	0.1	1.1						2.4		0.2					5.1
令和7年度目標 A 自己処理	b-1 中間処理委託量						1.3	0.1	1.1						2.4		0.2					5.1
令和7年度目標 A 自己処理	再生利用前委託量						1.3	0.1	1.1						2.4		0.2					5.1
令和7年度目標 A 自己処理	最終処分前委託量																					
令和7年度目標 A 自己処理	下水等放流前委託量																					
令和7年度目標 A 自己処理	b-2 最終処分委託量																					
令和7年度目標 B 直接委託処理	B 直接処理委託量						12.6		27.2						30.0		1,830.3				10.8	1,910.9
令和7年度目標 B 直接委託処理	B-1 中間処理委託量						12.6		27.2						30.0		1,830.3				8.1	1,908.2
令和7年度目標 B 直接委託処理	再生利用前委託量						11.3		23.0						21.4		1,830.3				5.9	1,891.9
令和7年度目標 B 直接委託処理	最終処分前委託量						1.3		4.2						8.6						2.2	16.3
令和7年度目標 B 直接委託処理	下水等放流前委託量																					
令和7年度目標 B 直接委託処理	B-2 最終処分委託量																				2.7	2.7
令和7年度目標	⑩ 直接及び自ら中間処理後の処理委託量						13.9	0.1	28.3						32.4		1,830.5				10.8	1,916.0
令和7年度目標	⑪ ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量						11.6		27.1						7.9						8.9	55.5
令和7年度目標	⑫ ⑩のうち再生利用業者への処理委託量						12.6	0.1	24.1						23.8		1,830.5				5.9	1,897.0
令和7年度目標	⑬ ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量																					
令和7年度目標	⑭ ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量						1.9		4.2												0.6	6.7

別紙 1

廃棄物の流れ　委託処理の範囲



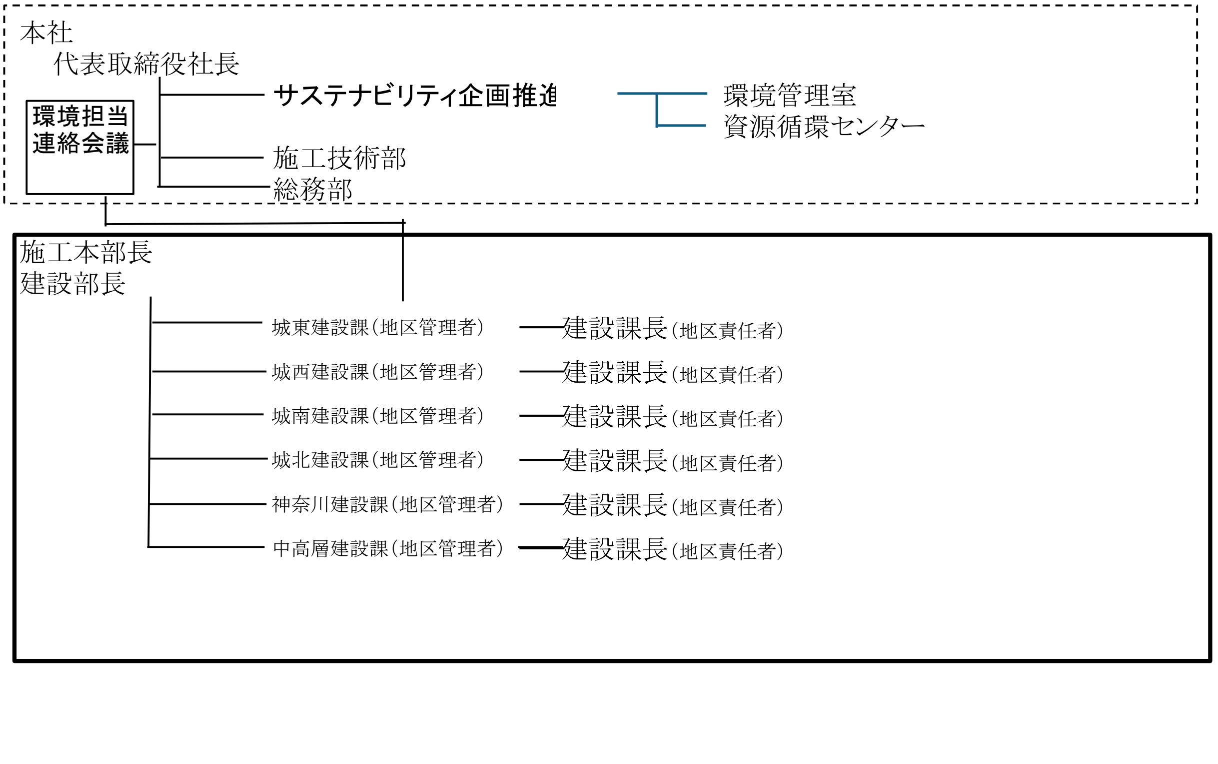
別紙2

＜産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項＞

管理体制図

担当者		役割
総括管理者	施工本部長	中央建設廃棄物処理管理者のもとで、地区の処理を統括管理する。
副統括管理者	建設部長	総括管理者の職務を補佐し、建設廃棄物処理担当と共に建設処理資源化再利用の現場指導、中間処理業者・収集運搬業者への指示育成並びに適正処理の総括にあたる。
地区責任者 （建設課長）	城東建設課 城西建設課 城南建設課 城北建設課 神奈川建設課 中高層建設課	担当地区の処理責任者として適正処理の実際を管理する。 ・　工事長、処理業者の指導 ・　資源化、減量化の実施推進 ・　廃棄物適正処理の管理
産業廃棄物管理担当	建設部技術一課	・　廃棄物処理計画の作成 ・　廃棄物管理状況の把握と改善策の検討 ・　処理業者、再生利用業者の調査、選定及び管理 ・　委託契約の締結 ・　産業廃棄物及び特別産業廃棄物管理票の交付、管理 ・　処理実績の集計・把握 ・　監督官庁への各種報告 ・　工事担当・業者の指導教育その他支援活動

廃棄物管理組織図



別紙３

＜産業廃棄物の排出の抑制に関する事項＞

	これまでに実施した取組	今後実施する予定の取組
廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類、木くず、紙くず	新築工事 ・広域認定活用による、余剰材FB・拾い出し適正化 ・梱包の削減・簡易化、リターナブル梱包・通い箱の実施 ・屋根パネルのプレハブ化・木質パネルなど部材プレファブ化 ・資材の適正搬入 ・石膏ボード余剰材の使いまわし推進 ・養生材の使いまわし推進 ・床養生材のリース化 ・余剰材・残材・端材の削減、適正化 ・将来の増改築・リフォーム・解体時できるだけ廃棄物が出ない部材・部品・製品としての商品開発	新築工事 ・重量測定により実態重量の把握と対策検討継続 ・重量測定にあわせ職種別発生量の把握・ファードバックと対策の継続 ・資材の適正搬入の推進 ・屋根瓦のプレカット化

＜産業廃棄物の分別に関する事項＞

	分別している産業廃棄物の種類及び分類に関する取組	今後実施する予定の産業廃棄物の種類及び分類に関する取組
廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類、木くず、紙くず	新築工事 ・現場分別排出 25分別の実施、自社資源循環センターでの60分別、ゼロエミッション継続 ・職種別分別早見表の作成と配布 ・現場に分別表の掲示 ・現場巡回による分別指導	新築工事 ・職方の分別に対する意識強化と25分別の徹底 ・自社資源循環センターでの適正分別の更なる推進、ケミカルリサイクルの実証実験 ・自社資源循環センターでの分別不備事例のフィードバックと水平展開
	解体工事 ・現場巡回による分別解体指導 ・解体工事店別の混合廃棄物の発生量の分析と指導	解体工事 ・左記内容の継続

＜自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項＞

	これまでに実施した取組	今後実施する予定の取組
	自社資源循環センターにRPF製造機・溶融機を設置し、RPF・PSインゴットを販売	サテライトでのPSインゴット設置を拡大

＜自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項＞

	これまでに実施した取組	今後実施する予定の取組
	同センターで60分別しゼロエミッション＝100%リサイクルを継続	分別精度向上とにより、マテリアル・ケミカルリサイクル率を向上させる

＜自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項＞

	これまでに実施した取組	今後実施する予定の取組
	新築は該当なし 解体での廃石綿等の適正処理	新築は該当なし 解体での廃石綿等の適正処理

＜産業廃棄物の処理の委託に関する事項＞

	これまでに実施した取組	今後実施する予定の取組
廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類、木くず、紙くず	解体工事 ・収集運搬業者・中間処理業者・最終処分業者視察 ・リサイクルの高い処分場持込への切替	解体工事 ・左記内容の継続 ・現場分別解体精度の向上